

コロナ禍における飲酒習慣の変化（第1報）週あたりの飲酒日数の経年変化

P04-3

三浦 利恵子1)、各務 竹康2)、鈴木 英子1)、日高 友郎2)、増石 有佑2)、春日 秀朗2)、遠藤 翔太2)

1) 公益財団法人 郡山市健康振興財団
 2) 公立大学法人 福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座

目 的

コロナ禍では、緊急事態宣言により 外出の自粛や行動制限など私たちの生活に大きな影響を与えた。複数人での宴会によるクラスターの発生は、メディアで大きく報道されるなど、長引く自粛によって行動様式に大きく変化をもたらした。本研究では、コロナ禍によって飲酒習慣がどのように変化したのか縦断的に追跡することを目的とした。

方 法

- 【対 象】
- ▶ 郡山市健康振興財団において、2018年度から2022年度にかけて毎年、健康診査を受診した者。
 - ▶ 20歳以上の労働者のうち、飲酒についての質問に回答した者。
4,375名（男性2,398名、女性1,977名）

- 【分 析】
- ▶ 『1週間に何日、飲酒していますか?』の質問に対する回答について、年度や男女別に週0(飲まない)回~7回それぞれの回答割合、および95%信頼区間を計算し、その推移を比較した。
- 統計解析は、傾向性の検定および2018年を対象群とした検定を行った。



結 果

■新型コロナウイルス流行前後の5年間ににおける飲酒回数について

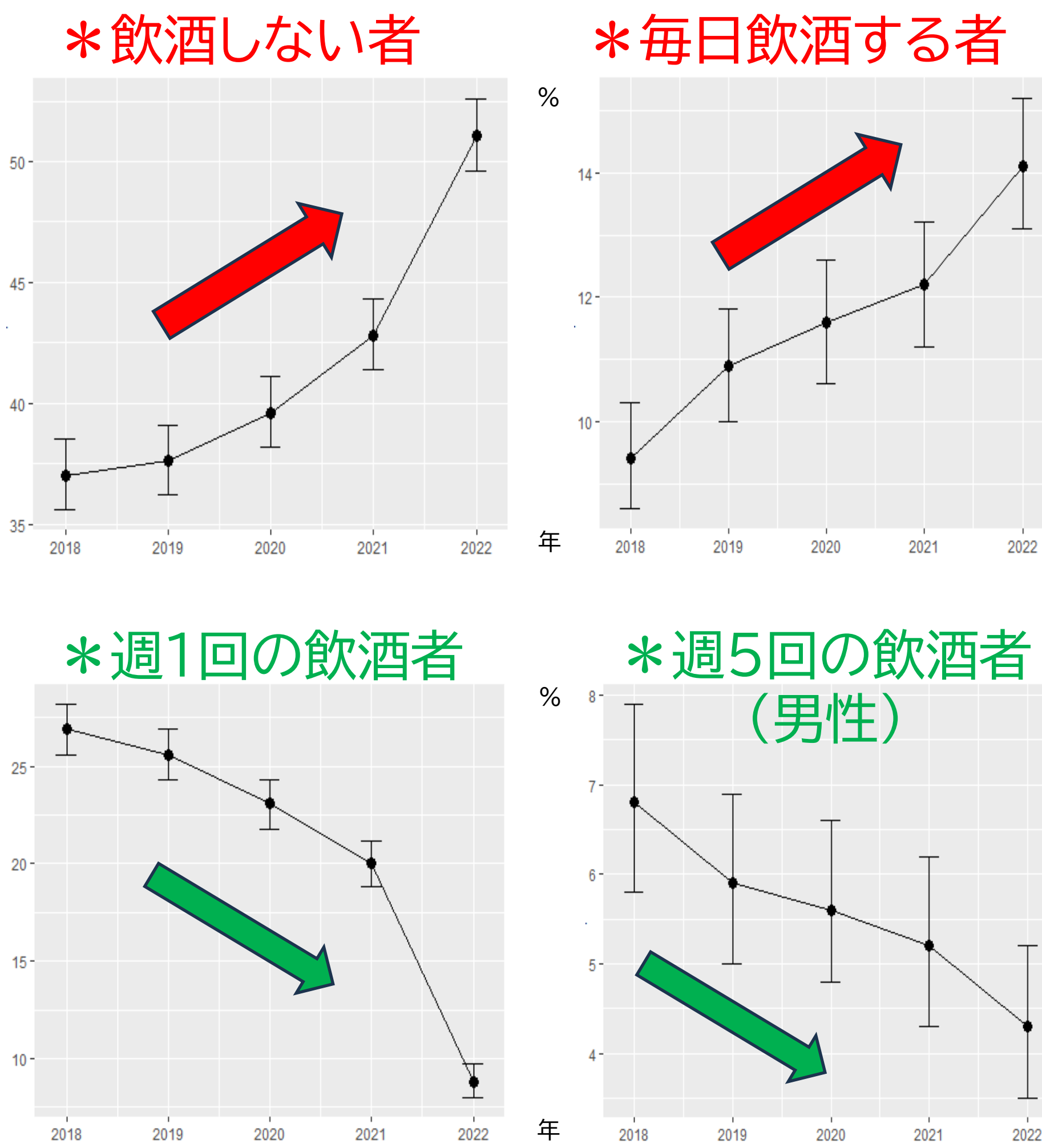
2018年度との比較では、男女とも傾向性で、有意であった項目において有意な変化を示した

＊年度別1週間あたりの飲酒回数(全体)＊

度年	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
有意に	増加↑	減少↓				男性減少↓		増加↑
2018	1620 (37.0%)	1176 (26.9%)	322 (7.4%)	319 (7.3%)	131 (3.0%)	236 (5.4%)	159 (3.6%)	412 (9.4%)
2019	1646 (37.6%)	1119 (25.6%)	312 (7.1%)	333 (7.6%)	138 (3.2%)	203 (4.6%)	148 (3.4%)	476 (10.9%)
2020	1734 (39.6%)	1009 (23.1%)	313 (7.2%)	330 (7.5%)	138 (3.2%)	194 (4.4%)	151 (3.5%)	506 (11.6%)
2021	1874 (42.8%)	874 (20.0%)	321 (7.3%)	312 (7.1%)	142 (3.2%)	179 (4.1%)	141 (3.2%)	532 (12.2%)
2022	2235 (51.1%)	387 (8.8%)	343 (7.8%)	333 (7.6%)	139 (3.2%)	157 (3.6%)	164 (3.7%)	617 (14.1%)

＊男女別飲酒回数における有意差＊

- 男性 ▶有意に増加(0回、7回)・有意な減少(1回、5回)
 女性 ▶有意に増加(0回、7回)・有意な減少(1回)



考 察

＊新型コロナウイルス流行後の変化＊

▶週1回の飲酒者が減少し、飲酒をしない者が増加

飲酒を伴う会合などでは飲酒をするが、日常の飲酒習慣がほとんどない機会飲酒者や、週末だけ自宅で飲むなどの者が長引くコロナ禍の生活習慣の変化で、お酒を飲まないという選択をした可能性がある。

▶週5回の飲酒者が減少し、毎日飲む者が増加

休肝日を設けていた飲酒者が、自粛生活の手軽なストレス発散の手段として毎日飲むように変化した可能性がある。

新型コロナウイルスの流行という一時的な変化は、生活習慣の変化をもたらし、体への影響も大きい。健診結果との関連なども確認し関連をみていきたい。今後、厚生労働省の標準的な健診・保健指導プログラムなどを参考に健康診査受診のタイミングや保健指導時に情報提供を行い適切な飲酒行動ができるよう支援していきたい。

▼問診表▼ 生活習慣15項目、他

問診票

特定保健診査(健康診査)の項目は、生活習慣15項目、他

問診票

特定保健診査(健康診査)の項目は、生活習慣15項目、他